



ひょうぐ

# 表具

# 住

長い歴史が育んだ伝統の技術。ふすまや障子、掛け軸などの製作や修復を行う。住宅にある壁紙の張替えなども手掛ける。



## ここに技あり!!

様々な刷毛を駆使して、脆く破れてしまいそうな紙を器用に扱い、水に弱い紙の汚れを洗い流す作業は高い集中力が必要です。

長い年月により色あせてしまった掛け軸や虫喰いやしみの入った古書画などが息を吹き返したかのように蘇るその技は、日本の歴史を支える貴重なものです。

布や紙を貼って、掛け軸、屏風（びょうぶ）、巻物、ふすまなどを仕立てる職人を表具師（または経師=きょうじ）と呼びます。

書画などを掛け軸や額に仕上げたり、傷んだ掛け軸を修復し、新たに仕上げる「表装」という仕事のほか、古書画の洗い修復、ふすまや障子などの製作・張り替え、最近では室内のクロス張りな

どの内装工事も行っています。

貴重な美術品や伝統的建築物の内装を手がけることもあるため、高度な技術と歴史や美術に関する幅広い知識が必要です。

一通りの仕事を覚えるのにおおよそ5年程度の修行を必要とし、10年程度の経験を積み重ねて、初めて一人前と言えます。

## 仕事の魅力

繊細な素材を扱うため、常に細心の注意を払います。お客様の希望を丁寧に聞き取り、理想の形に仕上げます。思いが込められている依頼品に、これからの長い歴史を歩んでもらう手助けができる。表具師の誇りです。

## ●学ぶ

表具店などに入って直接技術を学ぶ

## ●磨く

技能検定:表装技能士1~2級

## ●活かす

表具店で経験を積み、独立開業も可能。寺社からの依頼や歴史的価値のある重要文化財の修復・再生などを手掛けることもある。